

長谷川 望牧師

主イエスが最初に12弟子に復活の姿を現された時、トマスはいなかった。トマスは、人から聞いた話は絶対信じない疑い深い性格であったと思われる。イエスは親切丁寧な方で、この一人の弟子のために1週間後にもう一度現れた。「それからトマスに言われた。『あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。』トマスは答えてイエスに言った。『私の主。私の神。』(ヨハネ20:27~28) トマスは、実際に触ってみたとは思えない。疑いはイエスを見たときにすぐに吹っ飛んでしまっただろう。

* 福音書を書いたヨハネは、「信じる」という言葉を多く用いている。それはただ物や人や事実が間違いないというよりも深い意味がある。「神を信じる」「イエスを信じる」と言う場合、ギリシャ語では「en」英語では「in」という前置詞が必ずついていて、それはその信じる対象の「中に入り込むくらい」「一体となるくらい」信頼するという意味である。パウロが「キリストにあって」ということばを多用しているのと近い。イエスがトマスに「わたしを信じなさい」と言われたのは、「疑いを持たないで、わたしにすべてを委ねなさい」という意味であり、このことがわかったのでトマスは「私の主、私の神」と信仰告白したのである。

* 「信じない人」と「信じる人」のタイプ。

1. 見ないで信じない。一つのタイプは「知らないので信じられない」神、イエスのことを聞いたこともない人が信じるのは不可能である。もう一つは、一部のユダヤ人のように、神は知っているが、イエスがキリストであることを、その「しるし」を見ないでは信じない人。
2. 見ても信じない。さらに、イエスの新しい教えや数々の奇蹟を実際に見聞きしても、それでもキリストであると信じない人。それは、律法や慣習にとらわれていて、強い固定観念から抜け出せない人。
3. 見て信じる。最初のトマスがそうであったように、イエスが神の子、救い主であるという「しるし」を見て信じる人。ほとんどの人はこのタイプであろう。私たちがイエスが自分に大きなわざを成されたことを実感して信じるようになったのだ。
4. 見ずに信じる。

「イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」(ヨハネ20:10) イエスは、トマスは幸いではない、弟子失格と厳しい口調で言われたのではない。トマスの弱さをよくご存知のうえで、諭されたのだ。

これは、私たちに対することばでもある。現在、私たちはイエスを見ることはできない。しかし、聖書によって詳しくイエスのことを知ることができる。見えなくても信じる者となりたいし、なることができる。「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」

(ヨハネ20:31)